

三条高校WWL コンソーシアム構築事業の成果

1 基本構想

希望に満ちた未来を創るリーダー育成システムの構築 ～ 地場産業の町・日本の穀倉地帯からSDGs達成を目指す～

2 構想の概要

拠点校が所在する三条・燕を中心とした県央地域は、金属加工や農業が盛んで、品質の高い製品・農産物を生産し、独創的なアイデアで世界に進出する企業が集まり、SDGsは重大な関心事である。この特色を背景に、「産業」「農業・食料」「環境」を基本テーマとしながら、SDGs達成に向け、地元企業等と連携しながら地域課題の理解を深めるとともに、海外の高校・大学等とのオンライン交流・国際会議等を通じ、視野を広げて課題を捉え直し、課題解決を目指して、科学技術を活用しながら探究を深めていくカリキュラムを開発し、その成果を県内外に普及する。この実現に向けて、地域・県・世界をつなぐALネットワークを構築し、大学、企業機関等と協働して、オンライン・オフラインの両面から高度な学びを提供する。カリキュラム等の開発成果は、随時、SNS等で広く発信し、次世代を牽引する人材育成スキーム新潟モデルを示し、SDGs達成に寄与する。

3 事業の実施期間

令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

4 教育課程の特例の活用

事業の目的達成に資するために拠点校に以下の学校設定教科・科目をおく。

▶教科名 「WWL」

次の学校設定科目3つにより構成される。

①「グローバル探究」（1・2学年各2単位、3年1単位）、

②「WWL情報」（1・2学年各1単位）、

③「WWL論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（1・2学年各3単位、3学年2単位）

▶教科概要 地域課題を踏まえながら、グローバルな課題と共通するSDGs達成に向けて、地域と協働しながら解決策を探究し、発信・行動する力を育成するための教科・科目を設定する。文系理系の別にかかわらず生徒全員が履修する。

▶科目について

① グローバル探究（「総合的な探究の時間」の代替）

世界（グローバル）と地域（ローカル）の両方に目を向け、諸問題の中から自分が取り組むべき課題を見だし、集めた情報や客観的データをもとに新たな知見や解決策を創造・探究するとともに、自分の考えやアイデアを積極的に世界の人々と共有し、多様な他者と協力して課題解決やSDGs達成に貢献しようとする態度を

養うことを学習目標とし、以下の学習活動を行う。

a 課題研究（1～3学年）

生徒がグループを組み、各教科で学んだことを踏まえながら、地域に関連する課題を自ら設定し、その解決に向けて研究活動を行い、解決策をまとめ提言を作成する。

b グローカル・フィールドワーク（GFW）

1学年）グループで地場産業や農業法人などの現地研修を行い、それぞれの現状・課題、世界との関係、起業事例、環境への配慮等を学び、成果をまとめ、発表する。

2・3学年） 課題研究のテーマに関係する場所等を訪問し、調査・研究する。

c WWL特別講義（以下、WWL特講）

大学教員や地元企業経営者による現代社会・現代科学・地域課題等に関する講義により、生徒が幅広い学問分野を概観し、専門的な研究や文理を超えた学びに触れる。

② WWL情報（「情報Ⅰ」の代替）

「情報Ⅰ」の内容を基に、学校設定科目「グローバル探究」に係る課題研究、データ分析、成果発表等に関連した内容を含め、長岡技術科学大学、三条市立大学等と連携してカリキュラムを開発する。一人一台ずつ配備されたタブレット端末を活用したオンライン授業等を組み合わせて、場所を選ばずにより高度な学びを実現し、情報活用能力や思考力、表現力等の育成を目指し、実践研究する。

③ WWL論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（論理・表現ⅠⅡⅢの代替）

「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の内容に加えて、オンライン会議ツールやメールを用いて、海外連携校や海外連携大学と文化交流、地域課題の共有、課題研究に関する意見交換、共同研究、英語での研究報告書の作成等を行う。



5 R5年度の活動実績

凡例 ◎カリキュラム開発 ★ネットワーク事業 ◆校外機関との連携事業 ●海外交流事業

実施日	凡例	実施事業
4月11日(火)	◎	新入生オリエンテーションのプログラムの一つとしてWWLガイダンスを行う。
	★◆ ●	WWL 実行委員(高校生国際会議)を1学年各クラスから募集→26人
4月19日(水)	●◆	新モンゴル日馬富士学園とオンライン交流【写真部】17:10～18:00
5月18日(木)	◎◆	人権教育・同和教育講演会／WWL 特講 12:55～14:50 「差別のない社会を作り上げていくために私たちが考えるべきこと」 講師：林 泰成 氏（上越教育大学）
5月24日(水)	◎◆	WWL 特講【2学年】13:45～15:45 「自治体の地域課題への取組」 第一部 SDGs 未来都市の取組 講師 見附市、新潟市・(株)メビウス 第二部 地域課題と自治体の取組 講師 燕市 三条市
	◎	三条高校 WWL アンケート配付(1～3学年、教員は5/30配付)
6月5日(月)	★◆ ●	新モンゴル日馬富士学園と提携協定書調印式 14:00～15:00
6月9日(金)	★◆	「ウクライナから戦争と平和を考える」(広島大学WWLコンソーシアム事務局主催)オンライン講演会に参加。(生徒5人・職員6人)
6月10日(土)	★◆ ●	北陸新幹線サミット(長野県上田高校主催)に WWL 実行委員 10人(1年生6人・2年生4人)が参加。 会場：長野県上田高校 10:00～15:00 全体会～分科会～全体会
6月15日(木)	◎★ ◆●	第1回運営指導委員会・検証委員会 14:00～16:00
6月28日(水)	◎★	WWL 特講 12:40～16:40
	◆	【1学年】「探究学習の手法について」田中一裕氏(新潟大学創生学部) 【2学年】「平和について考える」

		長崎県立長崎東高校 3 年生 2 グループの発表～質疑・応答 (オンライン/Zoom 使用)
	◆●	新モンゴル日馬富士学園教員 2 人(数学、生物)が三条高校で研修 実施。(～7 月 21 日)
6 月 29 日(木) ～30 日(金)	◎	グローバルスタディズプログラム【2 学年】 世界各国から来日している留学生と、世界の諸問題を踏まえて設 定されたテーマについてグループ単位で英語で議論し、その結果 について英語でプレゼンテーションを行った。
7 月 3 日(月)	◎◆	WWL 特講 講師金子恵美氏 12:40～15:45 第一部 講演「もしも日本から政治家がいなくなったら」 第二部 講師と生徒によるミニ討論会 テーマ：不登校、入試制度、日本人の幸福度 講演終了後、希望生徒との座談会(生徒 7 人)
7 月 10 日(月)	◆	新潟市立高等学校等教員研修「高等学校における探究活動」に講 師として参加。 オンライン研修(Zoom 使用) 15:00～16:10
7 月 14 日(金)	◎	「私の進路設計」発表会【3 学年】 14:50～15:45
7 月 21 日(金)	◎◆	社会人講義【1・2 学年】 12:40～15:45 三条高校卒業生 14 人を講師に、9 分野で講義を行った。 講義に先立ち、2 年生は、グローバル探究の探究テーマについて 発表し、社会人講義講師からアドバイスを受けた。
7 月 27 日(木)	◎◆	WWL 特講【1 学年】 9:55～11:55 「あなたの知らない弁護士」 講師：県央地区弁護士 6 人
8 月 25 日(金)	●	AFS 長期留学生(ドイツ)受入 ～R6 年 7 月(予定)【1 学年】
8 月 26 日(土)	◆	「SDGs QUEST みらい甲子園」全国集会 ※1 年生 4 人が高校生審査員として事前参加。
8 月 30 日(水)	◎	グローバル探究中間発表会【1 学年】 70 班 12:40～15:45
8 月 31 日(木)	◎◆	グローバル探究中間発表会【2 学年】 67 班 12:40～15:45 新潟大学創生学部教授・学生 6 人がコメンテーターとして参加。 終了後、教員と探究手法等について意見交換。
9 月 9 日(土)		三高祭(文化祭)で、1・2 年生のグローバル探究の各班のテマ についてのポスター掲示。(137 枚)
9 月 13 日(水)	◎◆	WWL 特講「データでみる新潟県」【1 学年】 14:50～16:40 講師：新潟県統計課
9 月 16 日(土)	◆	三条市「Sanjo Rainbow Conference 2023」に 1 年生 3 人が参 加、滝澤市長と意見交換を行う。

10月10日(火) ～11月3日(金)	●	AFS 短期留学生(インド) 1人受入。【2学年】
10月19日(木) ～20日(金)	◎★ ◆●	WWL 新潟 高校生国際会議「三条・大地の学校」 19日 会場：スノーピークキャンプフィールド 基調講演・懇親プログラム・分科会 20日 会場：三条高校 分科会・全体報告会 会議宣言発表 国内外 23校・参加生徒 151人、引率等 32人（オンライン2校・3人） 協力者：新潟県国際交流員 5人、新潟大学・新潟事業創造大学・長岡技術科学大学の留学生 12人
10月24日(火) ～26日(木)	◎◆ ●	1年生の英語授業に県内大学留学生が参加(1クラス2回実施) ※県教育委員会「留学生ふれあい事業」を活用。
11月1日(水)	◎ ★◆ ●	グローバル探究分野別発表会【2学年】 12:40～16:40 台中市立台中第二高等学校2年生と2年生4人がオンラインミーティングを行う。 16:00～17:00（Google Meet 使用）
11月18日(土)	◎◆	新潟県高校生探究フォーラム 10:10～16:10 会場：アオーレ長岡 2年生1班が参加。⇒奨励賞受賞
12月4日(月)	◎◆	2年生「WWL 情報」に、長岡技術科学大学の学生6人がティーチングアシスタントとして参加。
12月4日(月) ～8日(金)	◎	グローバルスタディーズプログラム【1学年】 世界各国から来日している留学生と、設定されたプログラムに基づいてグループ単位で英語でアクティビティや議論を行い、その結果について英語でプレゼンテーションを行った。
12月7日(木)	★◆	県外視察 長崎東中学・高等学校
12月13日(水)	★◆ ●	台中市立台中第二高等学校2年生と2年生4人がオンラインミーティングを行う。 16:00～17:00（Zoom 使用）
12月15日(金)	★	広島大学オンラインフォーラムに2年生3人が参加。15:30～17:00 Topic「国境なき医師団の現場から」 グループディスカッション～発表～講評
12月17日(日)	★	全国高校生フォーラム 10:00～16:00 2年生1班が参加。

		会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
12月20日(水)	◎★ ◆●	第2回運営指導委員会・検証委員会 13:00～14:30
	◎◆	グローバル探究学年発表会【2学年】 14:50～16:40 ※講評：運営指導委員、検証委員、新潟県教育委員会
12月25日(月)	◎◆	グローバル探究分野別発表会【1学年】 8:50～11:55 ※新潟大学創生学部田中一裕教授・学生・院生、上越教育大学阿部雅也准教授がコメンテーターとして参加。
	◎◆	グローバル探究発表会「三高発地域への提案」【2学年】 9:55～11:55 コメンテーター：三条市、燕市観光協会、NPO 法人えんがわ、(株)玉川堂
1月17日(水)	◎	学年発表会【1学年】 14:50～16:40
1月21日(日) ～26日(金)	◎◆ ●	ベトナム研修旅行（ホーチミン市） 生徒24名、教員2名、添乗員1名 日系企業訪問、現地高校訪問、B&Sプログラム、SDGs学習、ベトナム県人会との交流、ホーチミン市内半日観光
1月23日(火) ～24日(水)	★◆	県外視察 神戸市立葺合高校(WWL R1～3) 兵庫県立明石北高校(SSH3期) 兵庫県立尼崎小田高校(SSH4期)
1月31日(水)	◎◆	WWL 特講【1学年】「県政と県議会の役割」 15:45～16:40 講師：県議会議長・副議長、県議会事務局
2月22日(木)	◎◆	分野別地域フィールドワーク【1学年】 12:40～15:45 クラス単位で、6クラスが4コースに分かれ各事業所を見学、事業説明を受けた。 訪問先：諏訪田製作所、新潟交通(株)、燕市産業資料館、小千谷市ささえ館、新潟県立歴史博物館
3月12日(火)・ 14日(木)	◎	高校生模擬国連会議【1学年】 12:40～15:45 2クラス単位で、グローバル・クラスルーム日本協会派遣講師(現地派遣・オンライン)による「国連新聞コース」プログラムを実施した。12日に2クラス、14日に4クラス
3月15日(金)	★◆	名古屋大学附属中高職員来校
3月18日(月)	★◆ ●	台中市立台中第二高等学校とオンラインミーティングを行う。 16:00～17:15 (Zoom使用/ブレイクアウトルーム4)
3月22日(金)	◎	グローバル探究合同ポスターセッション【1・2学年】 137班 8:50～11:55
3月27日(水)	★◆	名古屋大学附属中高研究発表会 2年生4班9人がポスター発表

		部門に参加
3月23日(土) ～31日(日)	◆●	次世代リーダー米国研修((株)ISA 主催)に1年生9人が参加。

6 実績についての説明

(1) グローカル探究

① 課題研究

- ・1学年は、個人単位でSDGsの17ゴールから自己の興味関心により一つのゴールを選定し、調べ学習を行った。その後、調べ学習で選んだ事項が近似・類似する生徒3～4人で班を編成し、70班がSDGsをふまえた探究テーマを設定し、探究活動を行った。(テーマについては一覧表参照)
- ・2学年は「地場産業の町・日本の穀倉地帯からSDGs達成を目指す」のメインテーマのもと、「地場産業」「農業・食料」「環境」を重点分野として、地域課題の解決を主眼に探究課題設定の指導を行った。生徒は3～4人で編成された67班で、各班で探究活動を行った。(テーマについては一覧表参照)
- ・3学年は、1年・2年時の探究活動を踏まえ、自分が解決を目指す社会課題を選定し、自分自身がその解決あるいは解決に向けた貢献にどのように関わるか、その実現に向けた進路設計を考察・探究した。これを「私の進路設計」としてまとめ、発表した。

1年生探究テーマ一覧

通番	探究テーマ
1	絶対貧困をフェアトレードで止めよう
2	ドギーバッグで食品ロスを減らすには
3	絶対的貧困の子供たちを減らすには
4	食品ロスを減らすには
5	子どもの相対的貧困を支援する
6	日本の飢餓を減らす
7	三条市の食品ロスを減らすためには
8	フードバンクを利用して三条市の子どもに健康を!
9	ブラジルの貧困層の生活改善に向けた提案
10	南スーダンの貧困・飢餓の原因探求
11	スイスから学ぶ日本の相対的貧困
12	飢餓とフードドライブのつながり
13	ニジェールの子どもたちの識字率を上げる
14	育児における男女格差について
15	無意識の差別や偏見をなくすには

16	性的マイノリティもそうでない人も過ごしやすい地域とは（三条）
17	地域ごとの状況と飢餓との関係性について
18	ジェンダー平等にするために日本の子育てをどう変えるべきか
19	日本のジェンダーギャップ指数問題と、女性が活躍できる未来へ
20	教師と部活動のかかわりについて
21	ジェンダー平等を実現するには
22	ブルキナファソの産業を安定させるためにわたしたちができること
23	飢餓から脱するために
24	水害の被害をなくすためには
25	新潟県の野菜の食品ロスを減らす
26	ゴミを減らして資源を守りたい
27	単身世帯の食品ロス率を減らすには
28	環境に優しいリサイクル方法を
29	災害の二次被害を防ぐ
30	新潟県のごみ処理について
31	食品の無駄をなくすには
32	森林資源を守るために
33	海のゴミ問題を解決するために
34	三条市の地域活性化のためのエシカル消費と食品
35	地域を活性化する方法
36	地球温暖化を防ぐための節電方法について
37	森林を整備し人々の関心を高め森林機能を継続させる
38	乾燥した地域での干ばつ対策
39	インドの洪水対策のためにできることは？
40	バイオマスプラスチックを普及させよう
41	地球温暖化対策における投資の有効性
42	移動手段を変えて、地球温暖化対策を！
43	シロクマを救え
44	森林を減らさないために何ができるか
45	人工石油で守る秋刀魚の未来
46	三条の夏の気温を下げたい
47	海洋汚染を抑え込む
48	ギニア共和国におけるマラリアの予防について
49	日本とサハラ以南の地域の教育程度による経済や社会での立場の違い

50	心の健康を守るには？in 新潟
51	すべての子どもに教育を
52	過疎過密 ～新しく地方に住む若者を増やそう～
53	健康に対する考え方は人それぞれ
54	ニジェールに質の高い教育を
55	新潟県の医師不足をどのように解消するか
56	保険サービスや医療を充実させるには？
57	新潟県内の交通事故の傾向と対策
58	日本における「質の高い教育」とは？大学について
59	安全できれいな水をつくる
60	バイオマス発電をつくろう
61	日本の屋外で出たペットボトルのゴミのリサイクルの手前を減らすには
62	水不足の解決 ～水処理装置の実用化～
63	誰もが安全な水を安く利用できるために
64	枯渇性エネルギーを減らすには
65	水と関係する健康被害の減らし方
66	電力不足を防ぐ
67	政府と地方はどのようにエネルギー問題を推進していけばいいか？
68	日本の児童虐待を減らすには
69	観光と国家発展
70	新潟県いじめ対策を見直す

2年生探究テーマ一覧

通番	分野	探究テーマ
1	子ども女性貧困	新潟県の男女の家事労働時間をバランス良くするには
2		本当に困っている人たちに子ども食堂に来てもらうには
3		高齢者の貧困問題を解決するには
4		新潟県のシングルマザーの貧困を支援するには一さまざまな制度の検討を考えてー
5		貧困家庭の就学に関わる負担を減らすには
6		ひとり親家庭にはどんな支援が効果的か
7		県央のヤングケアラーの支援対策としてすべきことは何か。
8		現役JK から見たスクハラの実態と改善策
9		新潟県で段階的にインクルーシブ教育を進めるにはー私たちが考える5ステップー

10		インクルーシブ教育 ー身体障害を持つ生徒がよりクラスに馴染めるようにするにはー
11		ICT の利用のすゝめ ーICT 授業による学力向上は可能かー
12		日本国内のDV被害者が助けを求めやすくするには
13	環境・食料	グリーンカーテンの代わりに暑さを防ぐものはあるか。
14		ミドリムシに一番適した培養方法は??? ー栄養ドリンクなどを用いれば、より培養できるー
15		県民の森の知名度を上げるには
16		暑さ対策としてハッカを利用できないか
17		日本のプラスチック廃棄量の多さの原因と対策 ー日本のプラスチックのサイクル率を上げるにはどうすればよいかー
18		三条市のゴミの排出量を減らすには
19		賞味期限により廃棄される食品を減らすには
20		大豆ミートの使用量を増やすには
21		食べる以外の昆虫の活用方法
22		農薬の量を抑制して育てた、有機野菜を食べてもらうには
23		新潟県で昆虫食が受け入れられるようにするには
24	農業・食料	新潟県の農業をドローンで活性化できるか
25		米粉の需要をあげるーお菓子作り需要の増加に便乗してー
26		より効果的な備蓄にはローリングストックが必要だ!
27		食品ロスを減らすための提案
28		給食の残飯を再利用するには
29		除雪の負担を減らそう(工夫)
30		山間部を利用して町おこしと防災を両立するためには何が必要か。
31		サブスクを使って空き家を有効活用するには。
32		枝豆は新潟県の災害時に非常食として活用できるか
33		遊休農地を解消 with ソーラーシェアリング
34	教育	世界の英語教育を参考にして日本人の英語力を伸ばすには
35		幸福度と教育制度の関連
36		一斉でない教育は実現可能なのか
37		日本の教員の労働環境の現状と改善案
38		「積極的な人間」を増やすには
39		理系女子を増やすには
40		教員不足をなくすには
41		日本の教育の改善点と欧米の教育
42		日本の体罰をなくすにはどのような対策が必要か

43		不登校生徒の心理的負担を軽減する教室環境づくり
44		本当に必要な校則とはなんですか？
45		グローバルな観点から見た日本の空き家問題と解決策
46	地域・国際	私たちが考える最良な英語教育とは。
47		グアテマラの人々が災害時に適切な情報を手に入れるには。
48		課題解決に向けた行動を促すための効果的な呼びかけとはどのようなものか
49		スモーカーマウンテン周辺の衛生環境を変えるには
50		新潟県の財政をさらによくするには
51		赤字ローカル線は廃止されるべきか
52		子ども持ちの家族を増やすためにはどのような取り組みを行えばよいか
53		三条市の人口減少を防ぐには？～企業へのアプローチ～
54		新潟県の人口を増やすのに最も効果的な対策とは
55		地域活性化 ー三条市の魅力、グルメを手軽の PR するには？ー
56		自動化は世界を変える！
57	観光・地域活性化	弥彦のデラウエアをブランド化するにはどうしたらよいか。
58		小千谷観光モデルコースを造ろう
59		下田村の PR 動画を作って魅力を発信しよう。
60		タイアップを活用して越後姫を有名にするには
61		小さくても魅力のあるサービスエリアを作るには？ in 新潟
62		どうやったら県央地域の食べ物の注目度を上げられるか
63		県央地域の道の駅がそれぞれの特徴を活して利用者を増やすには
64		DIY って、どうしたら・いちのきしょうてんがい・よくなるの？
65		新潟県のブランド苺「越後姫」のネームバリューを上げるには
66		八十里超えの観光
67		「不思議な新潟」を紹介して人を呼べるか

② グローカル・フィールドワーク

- ・ 7月下旬から9月上旬

課題研究のために、2学年の探究班が、地域の関連事業所へ訪問調査やアンケート等のデータ収集を行った。

- ・ 10月上旬から12月上旬

1学年の探究班が、地域の関連事業所へ訪問調査やアンケート等のデータ収集を行った。

- ・ 2月22日

次年度の探究の重点である「地域課題」の事前学習「地域を知る」として、1学年がク

ラス単位で地域事業所訪問した。

訪問先：諏訪田製作所、藤次郎オープンファクトリー、大泉物産、おぢや震災ミュージアムそなえ館、新潟交通、燕市産業史料館、新潟県立博物館

③ 校内発表会

a 中間発表会

8月31日(木) 2年生のグローバル探究中間発表会に助言者として、新潟大学創生学部田中教授と学生6人が参加、担当分野の探究班に対する意見・助言を行った。終了後、2年生教員と探究手法等について意見交換を行った。

b 分野別発表会

12月25日(月) 1年生の探究分野別発表会に田中教授、学生、院生と上越教育大学阿部雅也准教授がコメンテーターとして参加、担当分野の発表に対して講評を行った。

c 学年発表会

1月17日(水) 1年生は、各分野から選出された6班が発表し、担当職員からの講評を受けた。

12月20日(水) 2学年は、選出された6班が発表し、運営指導委員、教育委員会から講評を受けた。

7月14日(金) 3年生は、クラスを2分割し12会場で「私の進路設計」を発表した。1年2年時の探究活動で学んだことを踏まえて、自分の志望大学での研究テーマや将来的な社会貢献を具体化して発表した。

d 探究発表会「三高生から地域への提言」の実施

12月25日 三条市、燕市観光協会、NPO法人えんがわ、(株)玉川堂の職員をコメンテーターとして招いて、2年生の探究班から地域振興に関わる7つの班を選抜して発表を行いコメンテーターから講評・助言を受けた。また全発表の中から2年生から地域への提案するに相当と考えるものを投票で選び「サブスクを使って空き家を有効活用するには」が選ばれた。実現に向けたアドバイス等をコメンテーターから意見をいただいた。

<発表テーマ(発表順)>

- ・ひとり親家庭にはどんな支援が効果的か
- ・県央のヤングケアラー支援対策としてすべきことは何か
- ・サブスクを使って空き家を有効活用するには
- ・三条市のグルメをPRするには？
 - ーガチャポンを利用することで効果的にPRできるかー
- ・DIYって、どーしたら・いちのきしょうてんがい・よくなるの
- ・遊休農地を解消 with ソーラーシェアリング

- ・課題解決に向けた行動を促すための効果的な呼びかけとはどのようなものか - advance -

e 校外での発表会

11月18日(土) 新潟県高校生探究フォーラム

2年生1班が参加。

「DIYって、どーしたら・いちのきしょうてんがい・よくなるの」

⇒ 奨励賞受賞

12月17日(日) 全国高校生フォーラム 2年生1班が参加。

「人々をSDGs達成に向けて行動させる方法とは」

How to encourage people to take action to achieve the SDGs

f その他

外部団体からの依頼にもとづき、適当な探究テーマ班を選定し、外部団体主催のイベントに参加した。

8月26日(土) 「SDGs QUEST 未来甲子園」全国集会に1年生4人が高校生審査員として事前参加した。

9月16日(土) 三条市「Sanjo Rainbow Conference 2023」に1年生3人が参加して、市長と意見交換を行った。

(2) WWL 論理表現

- ・「WWL 論理・英語 I」「WWL 論理・英語 II」において、グローバル・スタディーズ・プログラム（国際理解集中講座）に取り組み、留学生を交えてグローバルな社会問題について英語でディスカッションし、その結果をデジタル・デバイスを活用してスライドを作成し、英語でプレゼンテーションを行った。
- ・「WWL 論理・表現 I」において、「グローバル探究」の時間で各自が作成したSDGsに関わるレポートを、長岡技術科学大学等の外国人留学生に対して英語でプレゼンテーションし、留学生たちが助言・指導を行った。

(3) WWL 情報

- ・「WWL 情報」において、1年生では情報モラルやセキュリティ等についての生徒個人がまとめたものをプレゼン形式で発表した。
- 12月4日 長岡技術科学大学の学生6人をティーチング・アシスタントに迎え、2年生の少人数グループによるプログラミングの学習を行った。このことによって、理数系への興味・関心を高めた生徒も見受けられた。

(4) 海外交流

- ・昨年度から、新モンゴル日馬富士学園とオンラインで日本語交流を有志生徒参加により交流を行っている。その縁で三条高校と新モンゴル日馬富士学園と提携校調印が実現し、モ

ンゴルから教員2人が1か月三条高校で研修を行った。高校生国際会議「三条・大地の学校」にオンラインで生徒1人が参加した。

- ・昨年度から英語でのオンライン交流を行っていた台北新北市科技大高専部の生徒2人がオンラインで高校生国際会議「三条・大地の学校」に参加した。
- ・台中市立台中第二高等学校とオンラインで、2年生の国際分野の探究テーマにに取り組む生徒が英語での交流を行った。
- ・令和6年1月21日～26日にベトナム研修旅行（ホーチミン市）を実施し、生徒24人教員2人が参加。ルフォンホン高校、ホーチミン工科大学で現地学生と交流、日系企業訪問（久光製薬）、現地在住の新潟県人会との交歓、現地学生とのホーチミン市内観光（B&Sプログラム）、グエン・ドク氏を講師に平和セミナー、孤児院訪問、メコン川での環境学習等を行い、実践的英語コミュニケーションや異文化交流に関する研修を行った。

(5) 高校生国際会議の開催

WWL事業が目指すアドバンスド・ラーニング・ネットワーク構築をねらいとして高校生国際会議を行い、県内外の23校、151人の高校生の参加があり、加えてサポーターとして県内大学留学生12人、新潟県国際交流員5人が参加した。初日を参加者間の円滑な交流の効果を目的に、三条市の(株)スノーピークのキャンプフィールドを会場とした。そのうえで、分科会での英語と日本語を交えた参加者間の対話を重視したプログラムを準備した。開放的な空間での対話経験は、初対面の生徒間のコミュニケーションを円滑にする効果が大きく、参加した生徒に好評であった。これまで、このような形でのさまざまな高校生が集まる会議イベントも県内での実績も乏しく、参加校をつなぐ機会としても貴重な場となった。

会議の概要は以下の通りである。

<全体テーマ>

同じ空の下、話そう未来の希望を

Under the same sky, let's talk on our SDGs for the bright future!

<分科会テーマ>

- A. イノベーションを起こそう
- B. 豊かな自然を守ろう
- C. 格差・不平等をなくそう
- D. 異なる価値観を認めよう
- E. 貧困をなくそう
- F. 持続可能な社会の発展

<日程>

10月19日(木) 会場：スノーピークキャンプフィールド

開会セレモニー（英語）

三条高校校長挨拶／来賓挨拶(教育次長)／生徒代表挨拶

基調講演（キックオフ・トーク）

（株）スノーピーク 事業企画課マネージャー 永松 悠佑氏

懇親プログラム（昼食、焚火をしながらの自由交流／分科会のグループ単位）

分科会 分科会6テーマごとに、8～10人のグループを編成。グループ内の司会、記録、話題提供は参加生徒が行った。各分科会グループには、参県内大学留学生と新潟県国際交流員がファシリテータとして加わった。（全16グループ）

10月20日(金) 会場：三条高校

分科会 各分科会グループごとに報告準備・資料作成

6分科会で報告会を行い、代表グループを選定

全体報告会（日本語／英語） ※オンライン配信

分科会報告 6分科会

会議宣言発表（下記参照）

閉会セレモニー（日本語／英語）

国際交流員コメント

生徒代表挨拶

<会議宣言>

2023 WWL Niigata International Conference for High School Students

SANJO DECLARATION

We, Sanjo High School students, have organized this conference as an opportunity to discuss the challenges of our contemporary society and the future with high school students from inside and outside of Niigata Prefecture and other countries. The concept of the Sanjo High School WWL project is to contribute to the achievement of the SDGs. The theme of the conference was set based on the SDGs, which represent the future society that we should realize. We chose Snow Peak's camp field as the venue for the first day of the conference because we thought that we should discuss the future not in a closed indoor conference room, but under the open sky and surrounded by nature.

This conference was attended by 151 high school students from Japan and abroad. Being able to talk with each other while surrounded by nature allowed us to expand our circle of acquaintances as well as our views and ideas on various contemporary issues. The breakout session reports are the result of these discussions.

We were aware of four important things through this conference. First, We believed that innovation in the agricultural sector would have a high ripple effect on society. Second, We believe that preserving nature is an important key to regional development and sustainable social development. Third, We also believe that by recognizing diversity in Japanese society and cooperating with each other, we can help create a society that is easier for more and more people to live in. Fourth, We became aware of the existence of various forms of poverty and shared that the elimination of poverty is our desire.

In July of this year, United Nations Secretary-General Antonio Gutierrez warned that "the era of global warming is over and the era of global boiling has arrived. We believe that this means that the time has come for us to make serious efforts toward the realization of a bright future society. It was very stimulating for us to talk under the big sky not only with high school students from various countries and regions, but also with international students from universities and CIRs from Niigata Prefecture. I hereby declare that each of us gathered here today is determined to work toward the realization of the shape of a future society by sharing the challenges of contemporary society and by utilizing the networks and knowledge we have expanded at this conference.

2023 WWL 新潟 高校生国際会議

三条宣言

私たち三条高校生は、新潟県の内外の高校生、海外の高校生たちと現代社会の課題や未来について話し合う機会として、この会議を企画しました。

三条高等学校 WWL プロジェクトのコンセプトは、「SDGs の達成に貢献する」です。国際会議のテーマは、「私たちが実現すべき未来社会を表す SDGs」です。私たちがスノーピークのキャンプ場を国際会議初日の会場としたのは、閉ざされた屋内会議室ではなく、広い空の下、自然に囲まれた中で私たちの未来を考えたかったからです。

この国際会議には国内外から 151 名の高校生が参加しました。自然に囲まれながらお互い話すことができたので、友達の間が広がっただけでなく、現代のさまざまな問題について意見やアイデアの輪が広がりました。分科会のセッションのレポートは、これらの議論の結果です。

今回の国際会議を通して、私たちは 4 つの大切なことを認識しました。

第一に、私たちは農業分野におけるイノベーションが社会に大きな効果をもたらすと確認しました。

第二に、私たちは自然の保全が地域発展と持続可能な社会発展の重要な鍵であると信じています。

第三に、私たちは日本社会の多様性を認め合い、協力しあうことでより多くの人が暮らしやすい社会の実現につながると考えています。

第四に、私たちはさまざまな形の貧困の存在を認識し、貧困の撲滅が私たちの願望であることを共有しました。

今年 7 月、アントニオ・グテーレス国連事務総長は、「地球温暖化の時代は終わり、地球

規模の沸騰の時代が到来した。これは、我々が地球規模の温暖かに向けて真剣に取り組む時期がきたことを意味する」と警告しました。明るい未来社会の実現に向けて、大空の下様々な国や地域からの高校生、留学生、新潟県の国際交流院の方々とお話できてことは大変刺激的でした。本日、ここにお集まりいただいた全員が、この会議で広げたネットワークや知見を活用しながら、現代社会の課題を共有し、未来社会の形の実現に向けて取り組んでいく決意です。

7 令和5年度の工夫・改善

2年生のグローバル探究を、学年一斉での実施とした。そのねらいは、①1年時の探究テーマの継続、②1年時からの探究班の継続、③理系クラス、文系クラスの枠にしばられない班編成、④探究分野に適した指導教員の配置を行う、の4点である。

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) イノベティブなグローバル人材の育成状況について

「SDGs達成を目指し、希望に満ちた未来を創る『提言・挑戦型』リーダー」を目指し、育成したい資質・能力として、(1)イノベティブ・マインドセット（多様な価値観の理解、粘り強く挑戦する力、アントレプレナーシップ、新たな価値の創造）、(2)現代社会の課題を理解する力（人文社会科学・地政学・科学技術等の知識・理解、情報・データサイエンス）、(3)課題を探究し、解決する力（課題発見力、論理的思考力・分析力・協働性、創造力、最適解を導く力）、(4)コミュニケーション・スキル（英語コミュニケーション力、ICTスキル、データ・メディアリテラシー、倫理観）を掲げている。

事業効果の計測データとして年度初めと年度末に、最高評価を4とする4段階評価のアンケートを行っている。各学年の入学時と今年度の数値を比較したものが表1、各学年の過年度比較をまとめたものが表2である。表中の網掛け部は平均値2点台のもので、工夫・改善項目として捉えているものである。

表1：生徒アンケート(各学年の推移)

※現3年生=R3年度入学生/現2年生=R4年度入学生/現1年生=R5年度入学生

WWL事業 生徒アンケート結果		各学年の推移								
		現3年生の推移			現2年生の推移			現1年生の推移		
		R3.12	R6.1	推移ライン	R4.2	R6.2	推移ライン	R5.5	R6.2	推移ライン
課題 発見	① 県央地域の課題を理解している	2.8	3.0		2.8	3.1		2.3	2.8	
	② 日本や世界が直面している問題を理解している	3.2	3.2		3.2	3.3		3.0	3.3	
	③ SDGsの概要を理解している	3.3	3.4		3.4	3.4		3.3	3.6	
課題 解決の 手法	④ 文章や情報も正確に読み取り、それについて他者と議論することができる	3.2	3.2		3.1	3.2		2.9	3.3	
	⑤ 課題について、科学的に思考・分析することができる	3.0	3.1		3.0	3.1		2.7	3.1	
	⑥ 実験結果やアンケート結果をわかりやすくまとめることができる	3.2	3.3		3.2	3.4		2.9	3.3	
	⑦ 学校外の人の意見を活かしながら、課題解決に取り組もうとしている	2.9	3.1		3.2	3.2		3.0	3.2	
リテラシー スキル	⑧ 相手に伝えるときに、わかりやすく説明しようとしている	3.5	3.6		3.7	3.7		3.6	3.7	
	⑨ ICTを活用し、情報を収集、分析、発信することができる	3.1	3.2		3.2	3.3		3.0	3.4	
マインド セット	⑩ 英語を使って、目的、場面、状況に応じてコミュニケーションがとれる	2.4	2.5		2.6	2.7		2.2	2.8	
	⑪ 海外交流について意欲がある	2.9	2.9		2.9	2.8		2.9	3.0	
	⑫ 県央地域の産業や特産物に興味がある	3.0	3.0		2.8	2.9		2.8	3.0	
	⑬ 海外の文化や国際問題に興味がある	3.1	3.2		3.1	3.1		3.2	3.3	
	⑭ 将来、地域の問題解決に貢献したい	2.9	3.1		2.8	3.0		2.9	2.9	
	⑮ 将来、国際的に活躍したい	2.7	2.7		2.7	2.7		2.7	2.7	
	⑯ SDGsの達成に貢献したい	3.3	3.4		3.3	3.3		3.5	3.4	
	⑰ 自分にはない、多様な価値を持つ他者の考えを取り入れていきたい	3.4	3.7		3.5	3.6		3.6	3.6	
⑱ 希望に満ちた未来を作るために、発言や挑戦ができるリーダーになりたい	2.9	3.0		2.9	3.0		2.9	2.9		

表2：生徒アンケート結果(過年度比較)

※「R3.12」の3年生・2年生は、WWL事業の対象外の生徒

WWL事業 生徒アンケート結果		過年度比較										
		3学年			2学年			1学年				
		R3.12	R6.1	推移ライン	R3.12	R4.2	R6.2	推移ライン	R3.12	R5.2	R6.2	推移ライン
課題 発見	① 県央地域の課題を理解している	2.6	3.0		2.6	2.9	3.1		2.8	2.8	2.8	
	② 日本や世界が直面している問題を理解している	3.2	3.2		3.1	3.1	3.3		3.2	3.2	3.3	
	③ SDGsの概要を理解している	3.2	3.4		3.2	3.3	3.4		3.3	3.4	3.6	
課題 解決の 手法	④ 文章や情報も正確に読み取り、それについて他者と議論することができる	3.2	3.2		3.0	3.1	3.2		3.2	3.1	3.3	
	⑤ 課題について、科学的に思考・分析することができる	3.0	3.1		2.9	2.9	3.1		3.0	3.0	3.1	
	⑥ 実験結果やアンケート結果をわかりやすくまとめることができる	3.1	3.3		3.1	3.3	3.4		3.2	3.2	3.3	
	⑦ 学校外の人の意見を活かしながら、課題解決に取り組もうとしている	2.8	3.1		2.9	3.1	3.2		2.9	3.2	3.2	
リテラシー スキル	⑧ 相手に伝えるときに、わかりやすく説明しようとしている	3.5	3.6		3.5	3.6	3.7		3.5	3.7	3.7	
	⑨ ICTを活用し、情報を収集、分析、発信することができる	3.0	3.2		2.9	3.1	3.3		3.1	3.2	3.4	
マインド セット	⑩ 英語を使って、目的、場面、状況に応じてコミュニケーションがとれる	2.4	2.5		2.4	2.3	2.7		2.4	2.6	2.8	
	⑪ 海外交流について意欲がある	3.0	2.9		2.8	2.4	2.8		2.9	2.9	3.0	
	⑫ 県央地域の産業や特産物に興味がある	2.8	3.0		2.8	2.8	2.9		3.0	2.8	3.0	
	⑬ 海外の文化や国際問題に興味がある	3.3	3.2		3.1	2.9	3.1		3.1	3.1	3.3	
	⑭ 将来、地域の問題解決に貢献したい	2.9	3.1		3.0	2.9	3.0		2.9	2.8	2.9	
	⑮ 将来、国際的に活躍したい	2.6	2.7		2.6	2.4	2.7		2.7	2.7	2.7	
	⑯ SDGsの達成に貢献したい	3.4	3.4		3.2	3.2	3.3		3.3	3.3	3.4	
	⑰ 自分にはない、多様な価値を持つ他者の考えを取り入れていきたい	3.7	3.7		3.5	3.5	3.6		3.4	3.5	3.6	
⑱ 希望に満ちた未来を作るために、発言や挑戦ができるリーダーになりたい	2.9	3.0		2.7	2.9	3.0		2.9	2.9	2.9		

アンケート項目「マインドセット」に該当するのは、「(1)イノベーティブ・マインドセット」である。表1生徒アンケート結果（各学年の推移）から、在学中の取り組みがマインド

セットの向上につながっていることが読みとれる。「過年度比較」からも同様のことがいえる。しかし、マインドセットについては、2点台のものが目立っている。学年が上がると改善の傾向が読みとれるが、社会的な活躍や貢献についての将来的な動機付けを高めるプログラムの開発が課題である。

アンケート項目「課題解決」と「課題解決の手法」に該当するのは、「(2)現代社会の課題を理解する力」, 「(3)課題を探究し、解決する力」がである。表1と表2生徒アンケート結果(過年度推移)から、この二項目について上昇している。このことは探究活動が、社会への関心を高めること、課題の発見、リサーチクエストと仮説の設定と立証といった手法の習得に有効であることを示している。

「リテラシー・スキル」に該当するのは、「(4)コミュニケーション・スキル」である。情報収集や資料作成においてタブレット活用が中心となったことで、ICTに関わるスキルについては数値が向上するとともに数値そのものも表1, 表2のアンケート項目の中では高い値を示している。取り組んでいるプログラムが効果的であると考える一方で、英語を使ったコミュニケーションでは2点台を抜け出せていない。英語コミュニケーションの機会を増やすことが有効な改善策と捉え、そのための方策を検討したい。

アンケートとは別に、1年生と2年生では、学年末に1年間の探究活動の振り返りの一環として自己評価を行っている。評価項目は、①情報収集力：情報を集めるために必要なソースや方法を選択して、各種ツールを駆使し効率よく必要な情報を収集することができる。②情報分析力：集めた情報をもとに、必要な事象を抽出することができる。③課題発見力：事象間の因果関係に基づいて結論を導くことができる。あるいは課題等を指摘、発見できる。④他者と協働する力：収集・分析等探究に関わる活動を、他者と協力し行うことができる。⑤他者との対話力：結論や課題等を導くために、自分の意見を主張するとともに、他者の意見を尊重した議論、問答ができる。⑥他者への質問力：他者の探究活動を理解するとともに、その発展のために意見や疑問点を積極的に発言することができる。また、そのことが自らの探究に対する取り組みの向上につながることを理解している。⑦資料作成力：自分の考えを文章や図を使用して論理的に表現し、明解な資料として作成できる。⑧発表する力：自分の考えを、マナー順守で適切なツールを用い、身体表現(発声、身ぶり等)を交えて語り、他者に伝えることができる。⑨主体的な取り組み：明確な目的意識を持って、自らが意欲的、積極的に取り組んでいる。グループ内の探究活動を率先して、グループの活動をリード、活性化できる。⑩総合評価、の10項目である。評価は5段階(5が最高評価)とした。

グローバル探究自己評価結果

表3：1年生の過年度比較

	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	他者と協 働する力	他者との 対話力	他者への 質問力	資料 作成力	発表 する力	主体的 取組	総合 評価
R3年度	4.12	4.03	3.68	4.31	4.09	3.39	3.93	3.63	4.00	3.63
R4年度	3.92	3.91	3.73	4.14	3.96	3.58	3.82	3.71	3.81	3.80
R5年度	4.12	4.15	3.97	4.38	4.23	3.92	4.17	3.97	4.04	3.93
推移										

表4：2年生の過年度比較

	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	他者と協 働する力	他者との 対話力	他者への 質問力	資料 作成力	発表 する力	主体的 取組	総合 評価
R4年度	3.92	3.91	3.73	4.14	3.96	3.58	3.82	3.71	3.81	3.80
R5年度	3.91	3.91	3.84	4.24	4.03	3.69	4.05	3.89	3.86	4.06
推移										

表5：R3年度入学生の推移

	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	他者と協 働する力	他者との 対話力	他者への 質問力	資料 作成力	発表 する力	主体的 取組	総合 評価
R3年度	4.12	4.03	3.68	4.31	4.09	3.39	3.93	3.63	4.00	3.63
R4年度	3.81	3.87	3.64	4.01	3.77	3.49	3.79	3.45	3.63	3.96
推移										

表6：R4年度入学生の推移

	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	他者と協 働する力	他者との 対話力	他者への 質問力	資料 作成力	発表 する力	主体的 取組	総合 評価
R4年度	3.81	3.87	3.64	4.01	3.77	3.49	3.79	3.45	3.63	3.96
R5年度	3.91	3.91	3.84	4.24	4.03	3.69	4.05	3.89	3.86	4.06
推移										

表3「1年生の過年度比較」、表4「2年生の過年度比較」のように、WWL事業の進行に比例して、各学年段階での自己評価は上昇傾向にあるといえる。表5「R3年度入学生の推移」、表6「R4年度入学生の推移」により入学年度別の推移をみると、表5のよ

うにプログラム開発拠点校指定初年度の入学生であるR3年度生は、1年時から2年時へは自己評価が下降する結果となっていた。「探究活動の時間が定期的にとれない」、「経験値が増えた分の自己評価が厳しくなった」等が要因と分析した。表6の指定2年目のR4年度入学生の場合は、1年時から2年時へは情報収集力を除き、自己評価が上昇した。この学年は授業時間割に「グローバル探究」があり「定期的な探究活動が行えたこと」「学年一斉実施形態としたことで生徒の意向に沿った班編制ができたこと」で探究活動に対する生徒の充足感を担保できる環境であったことが作用していると考えている。過年度比較でも総じて自己評価が上昇しているので、探究活動の形態・環境として、R3年度生の、時間割外・クラス単位での展開ではなく、時間割内・一斉実施の形態が適当であると考え。来年度はこの形態をベースにさらなる充実のプログラム開発を進める方向である。

(2) 文理融合的なカリキュラム開発について

2学年より、文系と理系に分かれたクラス編成となるが、グローバル探究は学年一斉の実施とし、文系と理系に区分しない班編制を是とした。その結果として、探究活動の過程で文系生徒の考え方に理系生徒が学ぶ、理系生徒の見方に文系生徒が学ぶ、という場面が創出され、多角的な見方の気づきや有効性を学ぶ機会となった。

前述の生徒の自己評価を当該のR4年度入学生について文理別で比較すると下表のようになる。比較対象として前年の2学年（R3年度入学生）の自己評価はを文理別で比較したものを下表に並記した。文理比較で高い数値のモノを網掛けにした。R4入学生は、数値の優位が文理にばらけているのに対し、R3年度入学生は全項目で文系が高いという偏りが出ている。前年度の2年生（R3年度入学生）は、クラス単位での探究活動、すなわち文理別であったことを鑑みると、文理融合の探究活動が、バランスのとれた能力開発に有効であること示唆していると考え。次年度の2年生も今年度同様の授業展開で行う予定であり、さらに検証を進めていきたい。

表：自己評価数値の理系文系クラス(2年時)での比較

		情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	他者と協 働する力	他者との 対話力	他者への 質問力	資料 作成力	発表 する力	主体的 取組	総合評価
R4 入学	理系	3.93	3.85	3.87	4.19	4.00	3.64	4.08	3.87	3.87	4.00
	文系	3.91	3.97	3.81	4.28	4.05	3.74	4.02	3.91	3.85	4.08
R3 入学	理系	3.68	3.77	3.57	3.96	3.71	3.46	3.71	3.28	3.58	3.83
	文系	3.94	3.96	3.70	4.06	3.87	3.52	3.88	3.61	3.69	4.08

9 次年度以降の課題及び改善点

A L ネットワークの構築については、高校生国際会議の開催は、新潟県では初めての取り組みであり、参加者の満足度も高い結果となった。ネットワーク・イベントとして高い有効

性があることがわかり、次年度も開催について検討することとした。分科会をベースにした対話重視の運営を行ったが、進行やとりまとめの手順等について十分な共有ができなかった面があり、初対面で多様な参加者が集う中での対話の難しさを感じた。海外高校からの参加が2校のみ、対面での参加も県内高校留学生5人にとどまった。県内大学の留学生や新潟県国際交流員の参加協力を得て「国際色」を出した。次年度も開催の方向で計画するに当たって、分科会の進め方やとりまとめの手順等の改善を行うとともに高校生での「国際色」を出せる工夫を検討したい。また今年度は高校生国際会議に注力した関係で開催を見送った県央ネット発表会については、国際会議と県央ネット発表会の目的とねらいを整理・調整し開催に向けた準備を進めたい。

探究活動においては、今年度の探究テーマも社会科学分野が多数となった。自然科学系の探究活動は、実験等の制約があるが県央ネットの実業校や県内SSH校との連携した活動を検討する等自然科学系の探究テーマを増やす取り組みは進めたい。

今年度の改善点であったとした1年時のグローバル視点と、2年時のローカル視点との関連性、継続性の欠如の克服については、2年生に昨年度からの継続的なテーマに取り組むグループの存在や、グローバルな視点での考察を指導したことで、改善の兆しが見られたが、まだ十分ではないので、探究活動の局面での効果的な指導に取り組んでいきたい。

海外交流については、今年度提携協定を結んだ新モンゴル日馬富士学園と将来的な探究活動を通じた交流を行いたい。また、台湾との交流が定着するよう取り組んでいきたい。

次年度はWWL事業終了後の自走を念頭に、その成果をどのように引き継ぎ活用していくか、そのために必要な条件整備について事業と並行して取り組む予定である。